

日 本 史

I 次の史料〔1〕～〔7〕を読み、(a)～(o)の問いに答えよ。史料は読みやすいように改めた箇所がある。

〔1〕 これより先、彈正尹三品阿保親王書を緘し、嵯峨太皇太后に上呈す。太皇太后中納言正三位 A を御前に喚び、密かに緘書を賜ひ、もって之を伝奏す。その詞に曰く、今月十日伴健岑^①来たり語りて云はく、嵯峨太上天皇今まさに登遐*1せんとす。国家の乱待つべきにあるなり。請ふらくは皇子を奉じ東国に入らん、と。

『続日本後紀』

* 1 登遐…上皇や天皇が亡くなること

〔2〕 高野天皇に諷して都督使となり、兵を掌りて自ら衛る。諸国の試兵の法に準拠して、管内の兵士^②国ごとに廿人、五日を番とし、都督衙に集めて武芸を簡閲す。(中略)中宮院の鈴印を取むるに及びて、遂に兵を起こして反す。その夜、党与を相招き、ゆきて宇治より B ^{はし}に奔りよる。山背守日下部子麻呂・衛門少尉佐伯伊多智ら、ただちに田原道を取り、先に B に至りて勢多橋を焼く。押勝これを見て色を失ひ、即ち高島郡に走りて前少領角家足の宅に宿る。

『続日本紀』

〔3〕 尚侍正三位藤原朝臣葉子は、かけまくもかしこき柏原朝廷の御時に、春宮坊宣旨として仕え賜ひき。(中略)かかる悪しき事くさぐさあれども、太上天皇^③に親しみ仕へ奉るに依りて、思し忍びつつおはしましき。しかるになお飽き足らずとして、二所朝廷をも言ひ隔てて、遂には大乱を起こすべく、また先帝の万代の宮と定め賜へる平安京^④を捨て賜ひ停め賜ひてし、平城の古京に遷さむと奏し勸めて天下を擾乱し、百姓を亡弊す。

『日本後紀』

〔4〕 朕即位の初め、^⑤左大臣藤原朝臣等、前太上皇の詔を奉じて、相共に輔導して朝政を取り持ち奉ること、今に五箇年に成りぬ。しかるに右大臣菅原朝臣、寒門*2より俄に大臣に上り収め給はり、止足の分を知らずに専権の心有り、^{ねいてん}佞諂*3の情をもって前上皇の御意を欺惑す。(中略)大臣の位に居すべからず。すべからく法律のままに罪なべ給ふべし。然れども殊におもふ所有らんが為なむ、大臣の官を停め、Cに罷り給ふ。

『政事要略』

*2 寒門…低い家柄

*3 佞諂…へつらうこと

〔5〕 悪くさかしまにある奴^く久^な多^た夫^ぶ礼^れ*4・^{まどひ}麻度比*5・奈良麻呂・古麻呂等、逆党をいざなひ率いて、先づ内相の家を囲みて其を殺して、即ち大殿を囲みて皇太子を退けて、次には^⑥皇太后の朝を傾け、鈴印契を取りて、右大臣を召して天下に号令せしめむ。しかる^⑦後に^⑥帝を廢して、四王の中に簡びて君となさむと謀りて、(中略)これに由りて勘へ問ひ賜ふに、ことごとにまことと申して皆罪に伏しぬ。

『続日本紀』

*4 久奈多夫礼…黄文王

*5 麻度比…道祖王

〔6〕 中納言正三位兼式部卿藤原朝臣種繼、賊に射られて薨ず。(中略)その種繼はDの孫なり。(中略)天皇、甚だこれを委任して、中外の事皆決を取る。初め首として議を建てて都を長岡に遷さんとす。宮室草創して百官未だ就かず、匠手・役夫日夜に兼作す。平城に行幸したまふに至りて、^⑧太子及び右大臣藤原朝臣是公、中納言種繼等並びに留守となす。炬を照らして^⑧催し^み検るに、燭下に傷を被りて明日第に薨ず。時に年四十九。

『続日本紀』

〔7〕 辛未、左京の人従七位下漆部造君足、無位中臣宮処連東人ら密を告げて称す、左大臣正二位長屋王、私に左道を学び国家を傾けむと欲す、と。その夜、使を遣はして固く三関^⑨を守る。(中略)癸酉、王をして自尽せしむ。その室二品吉備内親王、男従四位下膳夫王、無位桑田王、葛木王、鉤取王ら、同じくまた自経す。すなはちことごとく家内の人等を捉へて、左右の衛士・兵衛等の府^{いさ}^⑩に禁め着く。

『続日本紀』

- (a) 空欄 A の人物は、のちに大納言の失脚を導いたある事件で正式に摂政の任につくことになったが、この事件を何というか。
- (b) 下線部①と共謀したとされる人物について書かれた文章として**適切でないもの**を下から一つ選び、記号で答えよ。
- ㉔ 奈良時代なかばに左大臣となった橘諸兄の曾孫にあたる。
 - ㉕ 空海や最澄らと同時期に、入唐留学生として唐にわたった。
 - ㉖ この事件で本氏姓を剥奪され、伊豆へ配流の途上死去した。
 - ㉗ 空海・嵯峨天皇とともに、当代の能書家として三蹟と称された。
- (c) 下線部②について述べた文章として**適切でないもの**を下から一つ選び、記号で答えよ。
- ㉘ 兵士は正丁3人～4人に1人の割合で徴発され、軍団に編成された。
 - ㉙ 兵士の一部は衛士として都に送られ、宮門などの警備にあたった。
 - ㉚ 九州北部に配された防人は3年で交替したが、平安前期に消滅した。
 - ㉛ 軍団は桓武朝にすべて廃止され、代わって健児が国の警備にあたった。
- (d) 空欄 B に該当する国名を答えよ。
- (e) 下線部③に関連して、男性の天皇で初めて生前に譲位し、太上天皇となった人物を答えよ。
- (f) 下線部④の平安京の中央を南北に貫く道路名は何か。
- (g) 下線部⑤の人物が^{へんさん}編纂に関与した国史を答えよ。
- (h) 空欄 C に該当する官職名を答えよ。

- (i) 下線部⑥の人物について述べた文章として適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。
- ㊤ 藤原不比等の妹にあたり、臣下の出身で初の皇后となった。
- ㊦ 国分寺・国分尼寺の建立や盧舎那大仏の造立は、この女性が夫の天皇に勧めたとされる。
- ㊧ 夫の天皇が亡くなると、出家して尼となり、法華寺に入った。
- ㊨ 夫の天皇の追善を目的に、その遺愛品を法隆寺に納めたものが正倉院御物として伝わっている。
- (j) 下線部⑦の人物がのちに発願し、南都七大寺の一つに数えられた寺院の名称を答えよ。
- (k) 空欄

D

 に該当する人物の息子は、九州赴任時に反乱を起こした。息子の名を答えよ。
- (l) 下線部⑧の「太子」に該当する人名を答えよ。
- (m) 下線部⑨が設置された道として**適切でないもの**を下から一つ選び、記号で答えよ。
- ㊤ 東山道 ㊦ 山陰道 ㊧ 東海道 ㊨ 北陸道
- (n) 下線部⑩の四つの府と共に五衛府と総称された、もう一つの軍事組織を答えよ。
- (o) 史料〔1〕～〔7〕を年代順に古い時代から配列した時、第4番目となるものを記号で答えよ。

Ⅱ 次の文章〔1〕～〔3〕を読み、空欄 A ～ G にもっとも適切な語句を記入し、(a)～(h)の問いに答えよ。

〔1〕 室町時代も足利義満の頃になると、それ以前から衰退しつつあった天皇・朝廷の政治的権力はほぼ失われ、かわって室町幕府に結集した将軍家・守護大名・在地武士らが実質的な領国支配権を握るようになった。義満は、明の皇帝から「A」に封ぜられ、その返書で自身も「A 臣源道義」と署名したことは、その象徴的事態であった。しかしながら、戦国時代に入っても、朝廷の官職をえて領国支配の正当性をはかろうとする戦国大名・守護代も少な
^①からず存在しており、古代律令制にルーツを有する天皇・朝廷の権威はある程度命脈を保っていたことも否定できない。低い身分から関白に昇りつめた豊臣秀吉が、そもそも関白という朝廷の役職に就いて、その下に諸大名を位置づけることで服属させようとしたことも、その表れと見ることができる。また、1588年、ほぼ全国統一をはたした秀吉が、大内裏跡に造営した自らの邸宅B
^②に後陽成天皇を招き、その面前で諸大名に忠誠を誓わせたことも、なお残存している天皇・朝廷の権威を自らの覇権に利用しようとしたものだった。

(a) 下線部①に関して、周防・長門・筑前・豊前などの守護大名だった人物は、九州支配の正当性を得るために、官職を求めて朝廷に献金を繰り返した。京文化の移植に努めたことでも知られる、この大名は誰か。もっとも適切な人名を下から一つ選び、記号で答えよ。

㊶ 島津義久 ㊷ 大内義隆 ㊸ 大村純忠 ㊹ 細川忠興

(b) 下線部②に関して、後陽成天皇は学問・文芸に関心が深く、朝鮮活字術を用いて『日本書紀』神代卷などの古典を印刷・刊行している。後陽成天皇の命で出版された木製活字本を総称して何というか。もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

㊶ 慶長勅版 ㊷ 天草版 ㊸ 元和勅版 ㊹ 嵯峨本

〔2〕江戸に幕府を開き、全国覇権を確立した徳川家康は、天皇・朝廷が自ら権力をふるったり、その権威が諸大名に利用されることを抑えるために、天皇・朝廷を厳しく統制した。1615年には、天皇・朝廷を統制する目的で禁中並公家諸法度十七条が制定されたが、その第一条からは、天皇の政治的活動を抑え込もうとする意図が見て取れる。また、^③第七条において、武家と公家の官位を明確に区分したのは、それ以前の時代に見られた武家が朝廷官位に就く事態を回避しようとしたためであった。このほか幕府は、朝廷・公家に対しては、幕府が人選した公家二名の を通じて実務の細部に至るまで指示を与え、また当初は京都市中支配や西日本の諸大名の監視のためにおかれた京都 を通じて朝廷・公家への日常的監督を行った。このため17世紀半ば以降には、京都 は専ら朝廷・寺社の監督を行う役職に変わっていった。

しかし、強大な幕府権力にとっても、古代以来の天皇・朝廷の権威は侮れないものだった。後水尾天皇に対して、徳川秀忠の娘徳川 を入内させて懐柔に努めざるをえなかったのも、幕府が天皇・朝廷の動向に気配りしていたことを物語っている。また、改元は、幕府が実質的に決めていたとはいえ、天皇・朝廷の権限であることが禁中並公家諸法度第八条で明示され、最終的には天皇・朝廷が裁可して決定されていた。このほか、必ずしも幕府政治を否定するものではないものの、天皇・朝廷が継続していることを強調して日本の歴史を描きだす儒学者^⑤が少なからず存在していたことは、のちの尊王論の伏線になるものだった。

(c) 下線部③に関して、この法度の第一条の条文には、「天子諸芸能の事、第一御 也」とある。空欄に入る、もっとも適切な語句を答えよ。

(d) 下線部④に関して、のちに後水尾天皇は幕府の同意を得ずに譲位し、古代以来となる女性天皇が即位することになったが、この天皇は誰か。

(e) 下線部⑤に関して、天皇・朝廷が継続していることを強調して日本の歴史を描いた『中朝事実』を著した儒学者は誰か。もっとも適切な人名を下から一つ選び、記号で答えよ。

㉔ 藤原惺窩 ㉕ 山鹿素行 ㉖ 伊藤仁斎 ㉗ 山崎闇斎

〔3〕 幕府の圧倒的権力の下で安定していた幕府と天皇・朝廷の関係は、18世紀半ば以降には徐々に綻びを見せるようになった。1758年には、垂加神道の影響を受けていた竹内式部^⑥が、幕府の干渉に不満を持つ天皇の近習公家らと復古や尊王論を研究する活動を行い、摂家らの指導を無視して処罰される事件が起こった。

また、後桃園天皇の急死を受けて、実父が天皇ではなかった F 天皇が、閑院宮家から即位すると、実父に太上天皇（上皇）の尊号を宣下したいと幕府に迫り、幕府側^⑦がこれを拒否して C や公家らが処分される事件も起こり、以後、幕府と朝廷の協調関係は崩れ始めた。

これに先立ち、G の噴火もあって冷害に見舞われた天明の飢饉にさいしては、F 天皇は、禁中並公家諸法度で禁じられているにもかかわらず、幕府に民衆救済を要請する行動を起こしている。これが幕末期にかけて、朝廷が幕府政治に発言する契機となり、とりわけ19世紀に入って顕在化する「内憂外患」に際しては、天皇・朝廷はさまざまな発言・行動を行っていくこととなる^⑧。幕末期の尊王攘夷運動は、こうした朝廷側の主体的行動にも促されて高揚していった。

（f） 下線部⑥に関して、1767年には、朝廷政治を理想化して幕政を批判するなどした人物が謀反のかどで死刑に処せられた事件が起こっている。竹内式部はこの事件にも連座し、遠島処分となっているが、このとき死刑に処せられた人物は誰か。もっとも適切な人名を下から一つ選び、記号で答えよ。

㊦ 林子平 ㊧ 頼山陽 ㊨ 由井正雪 ㊩ 山県大弐

（g） 下線部⑦に関して、このとき幕府側の中心人物として、老中首座などの任にあったのは誰か。

(h) 下線部⑧に関して、「内憂外患」が深刻化している1863年、孝明天皇は石清水八幡宮・賀茂社などに行幸して攘夷祈願を行い、このことも尊王攘夷運動を刺激した。この年に起こった事件の組み合わせとして、もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- ㊤ 坂下門外の変—生麦事件
- ㊦ 禁門の変—四国艦隊下関砲撃事件
- ㊧ 薩英戦争—天誅組の変
- ㊨ 島津久光の上洛—寺田屋事件

Ⅲ 次の文章〔1〕・〔2〕を読み、空欄 A ～ I にもっとも適切な語句などを記入し、(a)～(k)の問いに答えよ。

〔1〕 歴史を研究する上で、さまざまな史料を集め整理することは、近代歴史学の基本である。『日本書紀』の編纂^{へんさん}をもって始められた A 以来中断していた日本の正史を編纂するため、明治政府は、1869年に旧和学講談所跡^{へん}に史料編輯^{しゅう} 国史校正局^{しゅう}を設け、太政官修史局や修史館などの改組を経て、1895年に史料編纂掛が東京の B 大学内に設置され、『大日本古文書』などの刊行が進められた。その過程で天皇家の皇統に関する C 正閏論争や、『日本書紀』等に含まれる年紀記載に関する史料批判などは、その後の実証的な歴史研究の基礎となるが、これらを主唱した歴史家は言論弾圧の対象とされた。

1930年代に入ると、天皇の絶対化を試みる歴史観としての D 史観が有力となった。一方、それらを批判し、天皇制を絶対主義体制とするマルクス主義歴史学の学派である講座派にも注目が集まったが、政府の弾圧に晒された。

(a) 下線部①に関して、この施設を創立した人物名を答えよ。

(b) 下線部②に関して、この機関に所属して『大日本編年史』等の編纂に従事し、厳密な史料批判によって歴史上の人物の実在性を否定して「抹殺博士」と呼ばれるなど、国史学の基礎を確立したとされる人物は誰か。もっとも適切な人名を下から一つ選び、記号で答えよ。

㉑ 折口信夫 ㉒ 田口卯吉 ㉓ 福沢諭吉 ㉔ 重野安繹

(c) 下線部③に関して、この史料集のうちの「編年文書」は、奈良時代の史料を時代順にまとめたものである。その中心となる古文書は、次のうちどれか。もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

㉕ 正倉院文書 ㉖ 東寺文書
㉗ 石清水文書 ㉘ 高野山文書

(d) 下線部④に関して、歴史観・歴史叙述にかかわる弾圧事件の対象となった著作や論文名と、その当事者についての正しい組み合わせはどれか。もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- ㉔ 『神代史の研究』—石橋湛山
- ㉕ 『神代史の研究』—河上肇
- ㉖ 「神道は祭天の古俗」—徳富蘇峰
- ㉗ 「神道は祭天の古俗」—久米邦武

(e) 下線部⑤に関して、講座派と対立した学派として労農派が知られている。その労農派を代表する学者は誰か。もっとも適切な人物を下から一つ選び、記号で答えよ。

- ㉘ 野呂栄太郎 ㉙ 猪俣津南雄 ㉚ 羽仁五郎 ㉛ 和辻哲郎

〔2〕 明治後期、各地で集積され、アーカイブされた史資料に基づき、新しい歴史叙述が多様な分野の人々によって生み出された。言語学者の E はアイヌ文学の研究を進めて『アイヌ神謡集』の刊行を支援し、また『明解国語辞典』を編集するなど国語学の研究によっても知られた。琉球に伝わる王朝文学を研究し、「沖縄学の父」と呼ばれた伊波普猷^⑦は、祭政一致時代の琉球王国が島津^⑧氏の支配下に置かれて以来の苦難に満ちた生活実態について明らかにする一方で、琉球と日本が密接不可分とする F 論を提唱し、日本民族が南下して沖縄人の起源となったと主張している。

^⑨『白樺』の創刊にも参加した美術史家の柳宗悦^⑩は、植民地朝鮮で日常生活に用いられている実用的な生活用具に出会い、無名の職人の作った民具にこそ真の美的価値があると主張した。また、朝鮮総督府林業試験場に勤務するかたわら、朝鮮の木工や陶磁器を研究した浅川巧は、柳らとともに景福宮内に G 美術館を設立し、朝鮮の文化的価値を広く伝えた。^⑪

これらに共通するのは、明治維新以来、西欧文明を範とする近代化を急速に推し進める中で、官製の国史像からこぼれ落ちる多様な民衆の生活文化や記憶を捉えるという問題意識であった。それらに真正面から取り組んだのが民俗学であり、また今和次郎が推し進めたような、当時の風俗や世相を研究する

H 学であった。民俗学者であり、『忘れられた日本人』の著作でも知られる I は、全国を歩いて日本人の生活を調査し、地域の振興にも力を注いだ。

(f) 下線部⑥に関して、『アイヌ神謡集』の作者の名前として、もっとも適切な人名を下から一つ選び、記号で答えよ。

- | | |
|------------|---------|
| ㉞ バチエラー八重子 | ㉟ 武隈徳三郎 |
| ㊱ 峠三吉 | ㊲ 知里幸恵 |

(g) 下線部⑦に関して、伊波普猷が生まれた1876年の琉球藩王の名前を答えよ。

(h) 下線部⑧に関して、「島津入り」と呼ばれているこの事件が起こった年を西暦で答えよ。

(i) 下線部⑨に関して、白樺派の一人で、『カインの末裔』を著した人物の名前を答えよ。

(j) 下線部⑩に関して、この人物の著作はどれか。もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- | | |
|---------------|-----------|
| ㉞ 『風土』 | ㉟ 『民藝四十年』 |
| ㊱ 『きけ わだつみの声』 | ㊲ 『海の幸』 |

(k) 下線部⑪に関して、柳らの保存運動によって移築保存が決まった旧朝鮮王宮の正門名として、もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ㉞ 陽明門 | ㉟ 守礼門 | ㊱ 光化門 | ㊲ 桜田門 |
|-------|-------|-------|-------|